



赤い羽根共同募金運動はじまる 10月1日～12月31日

赤い羽根 幸せつくる あいことば

赤い羽根共同募金は、民間の社会福祉事業を支援するため「社会福祉法」に位置づけられ、毎年10月1日から12月31日までの間、全国一斉に展開されています。

この募金は、市内の全小・中学校での児童・生徒への福祉教育などの取り組みや各地域の福祉会、障がい児・者への福祉事業に使われています。今年もみなさんのご理解とご協力をお願いします。



宗像大社秋季大祭での街頭募金



社協だより

178号

平成30年10月1日

発行
社会福祉法人
宗像市社会福祉協議会

〒811-3437 宗像市久原180
メイトム宗像2階
TEL 0940-37-1300

たすけあいの心

日本で共同募金運動が始まって70年以上が過ぎました。この間、社会経済状況も急激な変化をみせ、人々の生活も意識も変わってきました。共同募金は、人々がともに生きていこうという「たすけあい」の心に支えられ、人々の幸せを願ってともに歩んできました。

平成29年度の募金実績額は、

1184万7578円

自治会や町内会など地域住民のみなさんの協力を得て各世帯にお願いする「戸別募金」をはじめ、市役所、学校、福祉団体を対象にクオカードなどの資料を活用する職域募金、学校や病院、公共施設、事業所などでの募金箱による募金などいろいろな方法でお願いしています。

平成30年度募金の使いみち

平成29年度に宗像市で集められた募金は、全て福岡県共同募金会へ送金し、配分委員会などの審査の後、平成30年度に市社会福祉協議会を含む各申請団体などに配分されました。平成29年度に集まった募金は「平成30年度共同募金の使いみち(表1)」のように有効に活用されています。共同募金は、募金をした地域で生きたる寄付金です。

共同募金は計画募金

共同募金は、募金が集まってから使いみちを決める募金ではありません。事前に地域福祉のための使いみちの計画を立てます。この使いみちの計画に必要な額が「目標額」になります。

平成30年度の募金目標額

今年度の「目標額」は、昨年度実績と同額の1184万7578円です。

この目標額を達成することで「平成30年度共同募金の使いみち(表1)」

のような事業・活動を平成31年度も安定、継続して行うことができます。

700万円の目安額

市全体の「目標額」は1184万7578円ですが、「二世帯ではどれだけの金額を協力したらいいのかわからない」ということが分かっていくため、「一世帯700円を目安に協力していただく」と、計画されている事業が実施できます」と目安額をお知らせすることになっています。

この目安額を示すことが強制と受け取られがちですが、決してそうではありません。

達成するためにお願いする「目安」ですので、みなさんのできる範囲内でのご協力をお願いします。

多くの人に支えられて共同募金

「共同募金実績額の推移(表2)」を見ると、戸別募金(各世帯からの募金)が共同募金全体の約9割を占め、市内の多くの世帯からの募金に支えられています。

また、地域のいろいろな場面で、自治会長や組長、事業所や公共施設、学校の先生や児童、生徒のみなさんからの多くの支えで成り立っています。

ひとりひとりのたすけあいの心が、地域福祉活動に活用され、より住みよい地域をつくっていく原動力となります。

みなさんのご理解とご協力をお願いします。

積み立て

県共同募金会では毎年、県内のための災害準備金を積み立てています。災害準備金は、災害が発生した場合に災害準備金の一部または全部を拠出し、被災地域における災害ボランティアの支援を行っています。

平成29年7月九州北部豪雨の時には、朝倉市、添田町、東峰村、大分県日田市で災害救助法が適用され、被災者支援のための災害ボランティアセンターが開設されました。

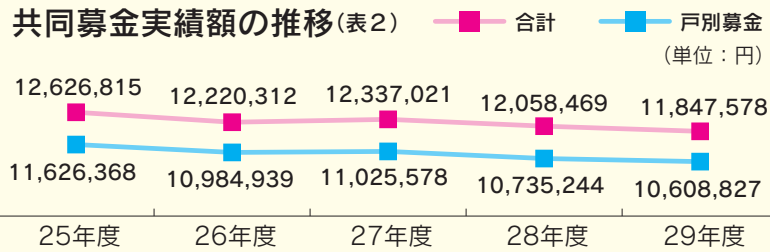
全国各地から集まった6万人を超えるボランティアによって、一般家庭の泥出しや家財の搬出を中心とした活動を行いました。この活動には、スコップ、バケツなどの備品や仮設トイレ、事務機器などのさまざまな費用が生じます。諸費用に

は、災害準備金が活用され、災害ボランティアセンターの運営を支えました。毎年、みなさんからご協力いただいている赤い羽根共同募金が災害ボランティア活動も支えています。

現在、共同募金会では、今年の大雨で被災された方々を支援することを目的に義援金を募っています。

集まった義援金については、各都道府県が設置する義援金配分委員会を通じて被災者に配分される予定です。みなさまのご協力をお願いします。

詳しい募金方法は、市社会福祉協議会に問い合わせてください。



平成30年度共同募金の使いみち(表1)

平成29年度の実績額は、1,184万7,578円でした。ありがとうございました。この募金は平成30年度、下記のような活動に活用されています。赤い羽根共同募金は、みなさまのあたたかな気持ちを、具体的な活動につなげていく、「じぶんの町を良くするしくみ」です。これからもご理解とご協力をお願いいたします。

項目	金額
高齢者の福祉に ●在宅介護者の会の支援 ●小地域ネットワーク活動への助成金 ●配食サービスボランティアの支援 ●シニアクラブ連合会への助成金 ●民生委員児童委員協議会への助成金	1,201,000円
障がい児・者の福祉に ●身体障害者福祉協会の支援 ●あじさいの会への助成金 ●手話講習会への助成金 ●あゆみの会への助成金 ●声の広報配布事業の支援 ●要約筆記ボランティアの支援 ●おもちゃ図書館運営の支援 ●宗像コスモス会への助成金	2,123,000円
ボランティア活動に ●福祉ボランティア活動連絡協議会活動の支援 ●大島地区ボランティア団体への助成金	534,000円
福祉会活動の支援に ●地域住民の自主的な地域福祉活動	2,683,000円
児童・青少年の福祉に ●福祉教育読本「ともに生きる」の活用 ●福祉教育推進校(園)事業	1,019,919円
子育て支援活動に ●地域福祉文庫連絡協議会の支援 ●NPO法人むなかた子育てネットワークこねっとへの助成金 ●母子寡婦福祉会の支援	545,000円
県内の福祉施設や災害準備金に ●県内全域を対象とした社会福祉施設や福祉団体に ●災害準備金に	2,553,329円
情報提供・啓発活動に ●社協だよりの発行	469,000円
共同募金の事務費に ●チラシの作成、資材の購入など	719,330円

赤い羽根共同募金・配分団体紹介

障がい者支援施設「社会福祉法人清浄会 緑ヶ丘学園」

マイクロバスが利用者の活動に大活躍!

緑ヶ丘学園は、大井にある障がい者支援施設で、現在82人の知的障がい者が入所しています。共同募金の配分をいただき、マイクロバスを購入しました。

緑ヶ丘学園ではマイクロバスを2台所有していましたが、数年前に1台を廃車してからは、残った車両とレンタカーなどで利用者のレクリエーションや作業支援に対応してきました。しかし、最近ではバスの老朽化も進み、故障のために使用できず利用者に不便をかけることになりました。



マイクロバスで清掃作業場まで移動します 作業もはかどります♪

納車されたバスを見て、「新しい匂いがする」「これクローラー効く?」とにぎやかでみなさんともうれしそうでした。マイクロバスを購入したことにより、利用者が安全で快適に、そして不便を感じずに活動できるようになりました。現在ではレクリエーションやドライブ、作業などで日々、利用者の足として活躍しています。これからも大切に乗り続けていきたいと思えます。



最後になりましたが、募金をしてくださったみなさん、本当にありがとうございました。

RUN伴+2018 宗像エリア 11/4 開催!



RUN伴（ランとも）とは、認知症になっても安心して暮らしていける街をめざして、認知症の人と共にタスキをつないでいくリレーイベントです。今年度も「子どもまつり」と同日に開催し、ユリックス一帯をパレードします。また、ユリックスイベントホール内では「オレンジカフェ」も開きます。

みなさんの参加協力をお願いします。

- 日時 11月4日(日・祝) 13:30頃 (雨天の場合変更あり)
- 集合場所 ユリックスイベントホール内 オレンジカフェブース付近
- 対象 どなたでもOK
- 問い合わせ先 (福)宗像市社会福祉協議会 ☎(37)1300



在宅介護者1泊 リフレッシュセミナー 参加者募集

市内在住で、在宅介護をしている人を対象に「在宅介護者1泊リフレッシュセミナー」を開催します。このセミナーは、在宅介護をしている人の「こころ」と「からだ」のリフレッシュを目的として実施します。今回の行先は、佐賀県嬉野市です。あなたも介護の手を休めて、同じ介護者との楽しいひと時を一緒に過ごしてみませんか。



- 主催 市、市社会福祉協議会
- 日程 10月25日(木)～10月26日(金)
- 対象 市内在住で、在宅介護をしている人
- 行先 佐賀県嬉野市(予定)
- 参加費 1人5000円
- 募集人員 30人(応募多数の場合、抽選)
- 申込方法 10月10日(水)までに、市社会福祉協議会に「名前」「年齢」「住所」「電話番号」「介護をしている人」を電話やファックス、Eメールで申し込み
- 申込先 市社会福祉協議会
※電話・Eメールアドレス「社協だより」の末尾を参照

地域福祉文庫講演会 参加者募集

読書を通じてお子さんに大切なことを伝えてみませんか？
市社会福祉協議会と地域福祉文庫連絡協議会では、左記の通り、講演会を開催します。
子どもすこやかな成長のためにも、ゆっくりお話を聞いてみませんか。

- 日時 10月29日(月)
午前10時～11時30分
(午前9時30分から受付)
- 会場 メイトム宗像202会議室
- 講師 筑紫女学園大学
教授 酒井均 氏
- 内容 発達をとおしてみた絵本
- 対象 子育て中の人、関心のある人
- 定員 先着50人
- 参加費 無料
- 託児あり 5カ月以上から 先着15人
- 申込方法 10月11日(木)までに
市社会福祉協議会
☎(37)1300
へ申し込む



オレンジカフェ 開催のお知らせ

オレンジカフェとは、認知症の人やその家族、地域住民、専門職が集い、介護負担の軽減や悩みの解消、同じ境遇の人との交流を目的とした「交流、相談の場」です。どなたでも自由に参加できます。現在、地域で活動しているボランティア団体や福祉会などのメンバーが、ひとつひとつ工夫をこらし、手作りのカフェを各地域で開いています。

日にち	時間	場所
10/12(金)	10:00～正午	城西ヶ丘公民館
10/26(金)	10:00～正午	広陵台1丁目公民館
11/4(日・祝)	10:00～15:30	ユリックスイベントホール内
11/17(土)	14:00～16:00	蜂須賀病院2F 食堂

- その他 料金 ¥100～¥200
申込 不要(ただし、11/17は要申込)
- 問い合わせ先 (福)宗像市社会福祉協議会 ☎(37)1300
※11/17分のみ 蜂須賀病院 [☎(36)3959] へ

このほり旗が目印です。



心なかつの 歴史を伝える ガイドボランティア

ボランティア入門講座

平成30年11月10日(土) 9:15~12:15 In 海の道心なかつ館

9:00~受付 9:15~開講式 海の道心なかつ館 体験学習室 定員先着 20人 参加者募集中!!

9:20~10:15 体験学習 まが玉づくり

海の道心なかつ館の展示説明や体験学習の支援などを司る地域学芸員指導のもと、滑石(かつせき)を使った「まが玉づくり」を体験。ボランティアに関わる体験談も伺いながらボランティアの意義と目指す姿勢について学びます。

10:20~10:50 ガイドボランティアについて学ぶ

講師：宗像歴史観光ボランティアの会 事務局長 東 修一氏

宗像歴史観光ボランティアの会による座学「ガイドボランティアの魅力」「ガイドボランティア活動についての留意点」「宗像歴史観光ボランティアへ参加について」など、ボランティア全般についての基礎知識を学びます。

10:55~11:55 菊花展・宗像大社境内 観光ガイド見学

宗像歴史観光ボランティアの会による宗像大社境内のガイドを実際に見て聞いてもらいます。外部に宗像の魅力を発信するだけではなく、観光ガイドボランティアの魅力について感じてもらう。

宗像大社境内
ガイド見学ルート
(予定)



12:00~12:15 ボランティア活動紹介・閉講式 希望者は後日、ボランティアセンターへ登録もできます。

申し込み
問い合わせ

本講座受講後に、地域学芸員、歴史観光ボランティアの会に入会とはなりません。

(株)宗像市社会福祉協議会
宗像市ボランティアセンター TEL 0940-37-4100 FAX 0940-37-4101
メール v-net@syakyo.munakata.com

10月31日(水)までに「講座名」「名前」「住所」「年代」「連絡先」をお知らせください
体験学習・ガイド見学があまりないので季節に応じた動きやすい服装・靴で参加してください



メール簡単申し込みQRコード

ボランティアセンター通信

十日曜日、祝日を除く午前8時30分~午後5時
ホームページアドレス http://kouyujukan.com/v-net/
メールアドレス v-net@syakyo.munakata.com

おもちゃ図書館休館日のお知らせ

左記の日程は、臨時に休館します。
よろしくお願ひします。
【休館日】11月22日(木)、11月29日(木)
問い合わせ先 同センター



ボランティアをはじめてみたい、ボランティアってどんな仕事？
宗像の歴史を伝えるボランティアさんに活動の話聞いてみたいなど
ボランティアに興味のある方の参加をお待ちしています。

夏休み期間に開催 「ジュニアボランティア スクール」報告

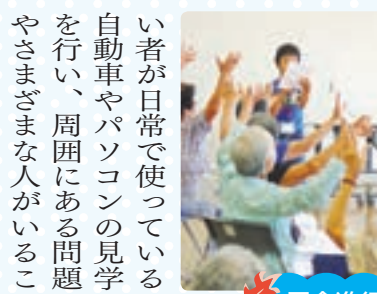
小学1年生から小学6年生が受講し、こども福祉員「バンビ」「ピッコラ」合計9人が誕生しました。

* 小学校低学年の子どもとその保護者が参加する「バンビコース」では、地域にある自然環境についてと、地域の人が利用できる福祉センターや高齢者の施設、利用する高齢者について学び考える学習を行いました。宗像に飛来する蝶や海の生物を通してプラスチックが小さなゴミになる実験や、自然を守る活動を通して自然環境を学んだり、施設の見学、高齢者と食事やモノづくりを通じて体験交流などを行いました。子どもたちは「物を大切にすると「ポイ捨てはしない」と自然環境に対する決意や、「(自分の)おばあちゃん」と話してみようと思った」や「こまっっている人のやくに立ちたい」など身近にいる人たちへの思いを語ってくれました。いっしょに参加した保護者からは「市内にある施設



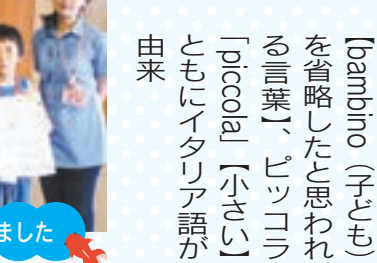
1日ががんばりました

設を見る良い機会になった」や「作業を通じた交流は自然に話ができるのでよかった」などの感想が聞かれました。
* 小学校高学年と中学生を対象にした「ピッコラコース」では、小学4年から6年生の4人が参加しました。



司会進行にも挑戦

最終日の3日目は岬地区で行われている高齢者むけのサロンに参加。みんなで考えてきたレクリエーションを、地域の高齢者といっしょに行ったり、昼食を食べたりして交流を図りました。
3日間いろいろな人に会い、相手から喜ばれる体験もしました。「障がい者の大変さが分かった」「お年寄りには耳が聞こえにくいから(説明が)むずかしかった」など、相手に合わせたコミュニケーションをとる大変さや工夫について考える機会となったようです。
今回学んだことを糧に



まとめの壁新聞もできました

い者が日常で使っている自動車やパソコンの見学を行い、周囲にある問題やさまざまな人がいることへの理解を深めました。
2日目はレクリエーションの学習。翌日に予定している地域サロンで行うレクリエーションを、参加する相手に合わせ、内容を組み立てました。
最終日の3日目は岬地区で行われている高齢者むけのサロンに参加。みんなで考えてきたレクリエーションを、地域の高齢者といっしょに行ったり、昼食を食べたりして交流を図りました。
3日間いろいろな人に会い、相手から喜ばれる体験もしました。「障がい者の大変さが分かった」「お年寄りには耳が聞こえにくいから(説明が)むずかしかった」など、相手に合わせたコミュニケーションをとる大変さや工夫について考える機会となったようです。
今回学んだことを糧に

寄付 ありがとうございます

- 【香典返し(敬称略)】
- (故)岩佐定子 (吉田)
- (故)大場清見 (三郎丸)
- (故)大丸良孝 (大穂)
- 筒井ヨシ子 (自由ヶ丘)
- (故)岐部照代 (日の里)
- (故)小田絹子 (池田)
- (故)福本義雄 (自由ヶ丘)
- (故)井上昭信 (朝町)
- 安永健彦 (上八)
- (故)乙藤重松 (吉留)
- (故)原チエコ (大島)
- (故)江藤誠 (武丸)
- (故)古田良勝 (日の里)
- (故)今里タツエ (大島)
- (故)遠藤幸男 (大島)
- (故)釜瀬勝之 (野坂)
- (故)熊谷賢 (土穴)
- (故)石松恵美子 (神湊)

市社会福祉協議会では、随時寄付を受け付けています。地域福祉の推進のために、ご協力をよろしくお願ひします。

社協だよりは、偶数月の1日号です (年間6回)

社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

宗像市久原180番地メイトム宗像内 ☎(37) 13000
大島支所 宗像市大島1809番地32ふれ愛センター内 ☎(72) 22994
ホームページ http://syakyo.munakata.com/ メール info@syakyo.munakata.com
本会は、むなかつタウンプレスを音にして届ける「声の広報」活動を実施しています